

情報化施工推進会議（第5回）

議 事 概 要

1. 日 時：平成 21 年 3 月 18 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分

2. 場 所：合同庁舎 2 号館低層棟 共用 3（A,B）会議室

3. 出席者： 建山和由委員長、矢吹信喜委員、藤澤侃彦委員、古屋弘委員、今岡亮司委員、小野木健二委員、武内利幸委員、鶴岡松生委員、平木彦三郎委員、福川光男委員、保坂益男委員、松隈宣明委員、三柳直毅委員、福田正晴委員、林日出喜委員、横田聖哉委員、下保修委員、岩立忠夫委員、藤本聡委員、前川秀和委員（代理出席）、深澤淳志（代理出席）、横山晴生委員（代理出席）

4. 議事概要

◆【資料 3－2】情報化施工の普及に向けたロードマップ（案）について

- 情報化施工の導入にあたって、効果（メリットやインセンティブ）を整理すべきである。
- 情報化施工に対応した新たな管理基準等を作ることは、現場での合理化・効率化が図られるなどの明るさが感じられない。（現場での）規制が増えるだけではないか。要領類整備の基本方針として、ICT（情報通信技術）という新しい道具を使う管理方法を意識して取り組むべきである。今までの施工管理の考え方は捨てるべきである。普及促進については、競争の評価、取り組んだ人への還元を考えるべき。

◆【資料 3－3】情報化施工技術と現行の施工管理基準等の関係（案）について

- 新たな基準を適用する際の問題点は、現行の施工管理要領より、新たな要領を適用するほうがかえって煩雑になることである。現行認められている要領（土の締固め管理における砂置換法）によらず、別の品質管理方法を採用させることは簡単にはいかない。（砂置換がもつとも安く簡単であるため）新たな施工管理要領の整備は、かなり大変な作業（多くの労力を要する作業）となると思われる。情報化施工では、これに勝る方法を考えなければならない。
- 現状の品質管理で良いのか（昔は砂置換しかなかったが）、ものを作る時の品質管理方法を根本的に見直すことが必要である。
- 品質管理の ICT 導入の考え方、インセンティブについては議論する必要がある。
- ダムにおける品質管理は、締固め回数管理に移行している。ただし、使用材料、含水比等をしっかりと把握しておく必要がある。

◆【資料3-5】情報化施工に関する米国調査報告について

- アメリカは、技術的には差はないが、情報化施工技術を導入する仕組み作りが進んでいる。小規模の会社でもインセンティブを見つけて、情報化施工を導入している。発注者は、マシンコントロールをしたいというときに、3D設計データやGPS位置補正情報の提供などで導入を推奨・協力している。
- (中小規模工事への導入に関して) 設計コンサルタント会社が情報化施工の研修会へ参加している。情報化施工機器はレンタル、測量はコンサルタント会社というように役割分担があっても良いのでないか。それが中小規模工事への導入方策と考えられる。

◆ その他

- 試験施工結果から抽出した情報化施工の効果をわかりやすい形で整理し、次回の推進会議(6月～7月開催予定)で報告すること。

以上